

キャサリーン・ジョーンズ先生

古 瀬 徹

私が現在、大学で「国際社会福祉論」や大学院で「社会福祉国際比較研究」を担当することとなった遠因は、とおく石川県庁時代に遡る。厚生省から出向中のこの時代には、直接社会保障や社会福祉関係の分野を担当せずに、伝統工芸の振興、国土計画法の施行、環境行政を担当していた。しかし、個人的な生活では、金沢大学に講師できていたカナダ人の先生に日本語を教えたり、会合でドナルド・キーンさんと話しをする機会をもつなど、外国という目をとおして日本を見ることの面白さに気づいていた。

その後、厚生省に復帰してすぐ、当時の西ドイツにある日本大使館に出向することとなって、ドイツにおける3年間の生活を軸にしてフランス・イギリス・イタリアなどにしばしば旅行する機会を得て、「世界の中の日本」という視点にいつそう引き込まれていった。

キャサリーン・ジョーンズ先生の名前を初めて知ったのは、伊部英男先生からである。伊部先生が当時、「日本における社会政策の研究」といったことを中心に基礎的な研究をされていたが、そのお手伝いをしていた。日本で「社会政策」といえば実際のところは労働問題を扱うものと考えられており、「社会保障」といえば医療保険や年金保険が中心の研究課題であり、「社会福祉」といえば、「福祉六法」といわれるものが中心になっており、これらの全体を包含する概念が明確でなく、このことが日本における社会的な問題の研究を遅らせてきた、というのが伊部先生の基本的な認識であった。このことは、社会的な問題の取り組みとしては先輩格であるヨーロッパの学問動向を踏まえて初めてわかることであり、伊部先生は社会保障研究所の図書館にある最近の刊行図書を検査され、ジョーンズの国際比較研究の本を見つけられた (Patterns of Social Policy, 1985)。

ジョーンズの本によれば、Social Policy といわれる研究分野の対象としては、Social Security (わが国でいう所得保障ということになる)、Health Care, Personal Social Service (わが国でいう狭義の「社会福祉」の制度的な側面を指すことになる) の他、住宅政策・教育政策・雇用政策を含むという (雇用政策については、ジョーンズ先生は能力的にカバーできなかったとしている)。イギリスの他の教科書と比べてみると、このような分野を Social Policy の範囲としてとらえるということはむしろ当然のように考えられている。

ジョーンズ先生のアプローチのもう一つの特徴は、Social Policy の発展を国際比較する際に、産業構造の進展、女性の参政権や労働組合の発展など、広汎な政治的・経済的な要因との比較の中で行っていることである。

この広汎な対象範囲と、政治的・経済的な視野の中で Social Policy を考察するという方法は、伊部先生と故福武直先生が始められ、福武先生を代表とし、次いで早川和男先生を代表とする研究会で深められた（その報告は、伊部・早川編『世界の社会政策』の末尾に収められている）。

年金総合研究センターの主催で、ジョーンズ先生を東京にお招きし、講演会がもたれた（その講演は伊部先生の訳で上記の本に収められている）。その折、私は少女じみたことだが、先生の本をもって行ってサインをしてもらった。そして、「この本は素晴らしいが、日本が視野に入っていないのは大きな片手落ちではないか」と失礼を顧みず質問したところ、「それで、今回、伊部先生のお誘いに喜んで日本へきたのです」と言われた。すでに、香港の Social Policy について、イギリスとの対比で分析されたご本を伊部先生に進呈されたので、ジョーンズ先生の視野にはアジアが入っていたのである。

1994年に、ジョーンズ先生が伝統ある学術誌の“Social Policy and Administration”の編集主任になったとの便りがあり、近くアジアの特集をするとのことだったので、私は何人かの若手の研究者の名前を連絡した。

最近の私の講義では、冒頭にジョーンズ先生の方法と、A. Gould の著作（ここでは日本研究の意義を強調している）を紹介することになっているが、日本の Social Policy についての発信がより行われる必要があると思う。その意味で、社会保障研究所が英文の専門情報の刊行を本格的に開始されたことを高く評価したい。私自身も、英語力の乏しさを自覚しながらもこれまで高齢者への介護政策の分野で、国際的な場で日本の事情を発信してきたが、情報量が圧倒的に少ないため、いつも予想外の反響を受けてきた。ジョーンズ先生の雑誌にまとまった論文を投稿するのがご恩返しだと今後の精進を覚悟している。

（ふるせ・とおる 日本社会事業大学教授）